

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年11月9日

【四半期会計期間】 第39期第3四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

【会社名】 サイバネットシステム株式会社

【英訳名】 Cybernet Systems Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役 安江 令子

【本店の所在の場所】 東京都千代田区神田練塀町3番地

【電話番号】 03-5297-3010

【事務連絡者氏名】 取締役 田中 秀幸

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区神田練塀町3番地

【電話番号】 03-5297-3010

【事務連絡者氏名】 取締役 田中 秀幸

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第38期 第3四半期 連結累計期間	第39期 第3四半期 連結累計期間	第38期
会計期間	自 2022年1月1日 至 2022年9月30日	自 2023年1月1日 至 2023年9月30日	自 2022年1月1日 至 2022年12月31日
売上高 (千円)	14,406,021	15,282,651	19,936,405
経常利益 (千円)	1,098,580	1,009,996	1,693,546
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	600,941	532,100	999,738
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,010,482	762,642	1,248,491
純資産額 (千円)	14,512,831	14,623,107	14,749,581
総資産額 (千円)	23,974,500	25,518,184	24,155,346
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	19.40	17.22	32.31
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	59.8	56.7	60.3
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	499,170	1,750,841	773,286
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	2,761,411	2,640,722	654,170
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,320,701	900,775	1,321,748
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	14,795,018	11,239,875	12,750,101

回次	第38期 第3四半期 連結会計期間	第39期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	0.88	7.84

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 財政状態の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は255億18百万円となりました（前連結会計年度末比13億62百万円増加）。

流動資産は234億51百万円と、前連結会計年度末比12億20百万円増加しました。受取手形、売掛金及び契約資産、有価証券が減少した一方で、現金及び預金、前渡金が増加したことによるものです。固定資産は20億66百万円と、前連結会計年度末比1億42百万円増加しました。主として、無形固定資産が増加したことによるものです。

負債合計は108億95百万円となりました（前連結会計年度末比14億89百万円増加）。流動負債は97億98百万円と、前連結会計年度末比14億38百万円増加しました。主として、未払法人税等、前受金が増加したことによるものです。固定負債は10億96百万円と、前連結会計年度末比50百万円増加しました。

純資産合計は146億23百万円と、前連結会計年度末比1億26百万円減少しました。親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加及び為替換算調整勘定の増加、配当金の支払に伴う利益剰余金の減少によるものです。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の60.3%から56.7%となりました。

##### キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は112億39百万円となり、前連結会計年度末に比べて15億10百万円減少しました。当第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況とその主な要因は、次のとおりです。

営業活動によるキャッシュ・フローは17億50百万円のプラスとなりました（前年同四半期は4億99百万円のプラス）。仕入債務の減少がある一方で、税金等調整前四半期純利益の計上、売上債権の減少によって増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは26億40百万円のマイナスとなりました（前年同四半期は27億61百万円のプラス）。主に、有価証券の取得による支出の計上によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは9億円のマイナスとなりました（前年同四半期は13億20百万円のマイナス）。主に、配当金の支払によるものです。

#### 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高が152億82百万円（前年同期比6.1%増）、営業利益は10億34百万円（同13.4%減）、経常利益は10億9百万円（同8.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億32百万円（同11.5%減）となりました。

売上高については、シミュレーションソリューションサービス事業の国内における保守契約の更新及びITソリューションサービス事業が好調に推移したこと等により、増収となりました。

利益については、人的資本投資に伴う労務費や人件費の増加、営業活動量の増加に伴う旅費交通費の増加、基幹システム稼働に伴う減価償却費の増加等により、減益となりました。

各セグメントの経営成績は、次のとおりです。

#### （シミュレーションソリューションサービス事業）

売上高は120億36百万円（前年同期比6.2%増）、セグメント利益は17億46百万円（同5.4%減）となりました。

国内では、主力製品であるマルチフィジックス解析ツールは、新規ライセンスの販売が復調し、保守契約の更新も好調に推移いたしました。また、AIやAR関連のエンジニアリングサービス、MBSEの導入支援に関するコンサルティングサービス等が好調に推移いたしました。

海外では、販売子会社は地政学的リスクを背景とした先行きの不透明感等を背景に、顧客の購買意欲が弱く、減収となりました。

利益については、セールスマックスの変化による商品原価の増加、営業活動量の増加に伴う旅費交通費の増加等により、減益となりました。

#### （ITソリューションサービス事業）

売上高は32億46百万円（前年同期比5.8%増）、セグメント利益は3億42百万円（同15.5%減）となりました。

ゼロトラストセキュリティ実現のための基本要素である次世代型エンドポイントセキュリティの販売、クラウド環境向けセキュリティソリューションの販売が好調に推移いたしました。

利益については、円安等による商品原価の増加、労務費や人件費の増加等により、減益となりました。

#### (2) 資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社グループは、事業に必要な資金を安定的に確保することを基本方針としております。当社グループの資金需要は、運転資金のほか、ソフトウェア開発費用、企業価値向上への貢献が見込める成長分野への事業投資等があります。これらの資金需要に対しては、自己資本または必要に応じて金融機関からの借入による資金調達を実施致します。

#### (3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更はありません。

#### (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は6百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

#### (5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通しに重要な変更はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	129,600,000
計	129,600,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年11月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	32,076,000	32,076,000	東京証券取引所 (スタンダード市場)	単元株式数は100株で あります。
計	32,076,000	32,076,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年9月30日		32,076,000		995,000		909,000

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしておりません。

【発行済株式】

2023年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,174,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 30,892,400	308,924	
単元未満株式	普通株式 9,100		
発行済株式総数	32,076,000		
総株主の議決権		308,924	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式95株が含まれております。

【自己株式等】

2023年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) サイバネットシステム株式会社	東京都千代田区 神田練堀町3番地	1,174,500	-	1,174,500	3.66
計		1,174,500	-	1,174,500	3.66

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成していません。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年1月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	8,348,001	9,682,795
受取手形、売掛金及び契約資産	3,606,003	3,009,704
有価証券	7,000,000	6,400,000
商品及び製品	33,790	7,682
仕掛品	22,587	37,853
原材料及び貯蔵品	8,539	9,273
前渡金	2,623,174	3,925,787
その他	591,384	380,709
貸倒引当金	2,165	1,956
流動資産合計	22,231,315	23,451,849
<b>固定資産</b>		
有形固定資産	342,804	331,964
無形固定資産		
その他	1,007,278	1,134,781
無形固定資産合計	1,007,278	1,134,781
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	2,055	2,325
その他	592,672	651,458
貸倒引当金	20,781	54,195
投資その他の資産合計	573,947	599,588
<b>固定資産合計</b>	1,924,030	2,066,335
<b>資産合計</b>	24,155,346	25,518,184



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,195,161	1,285,005
未払法人税等	20,826	318,388
賞与引当金	409,525	256,419
役員賞与引当金	29,057	30,740
助成金返還引当金	429,929	480,270
前受金	5,442,771	6,534,635
その他	832,349	892,999
流動負債合計	8,359,622	9,798,459
固定負債		
退職給付に係る負債	992,044	1,023,126
役員賞与引当金	19,853	34,899
その他	34,243	38,590
固定負債合計	1,046,141	1,096,616
負債合計	9,405,764	10,895,076
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	995,000	995,000
資本剰余金	913,261	917,717
利益剰余金	13,059,237	12,704,652
自己株式	754,879	746,596
株主資本合計	14,212,619	13,870,772
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	360,102	587,823
その他の包括利益累計額合計	360,102	587,823
非支配株主持分	176,859	164,511
純資産合計	14,749,581	14,623,107
負債純資産合計	24,155,346	25,518,184

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年1月1日 至2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年1月1日 至2023年9月30日)
売上高	14,406,021	15,282,651
売上原価	8,507,185	9,265,451
売上総利益	5,898,836	6,017,200
販売費及び一般管理費	4,703,793	4,982,480
営業利益	1,195,042	1,034,719
営業外収益		
受取利息	12,435	19,455
助成金収入	7,134	4,819
その他	1,386	2,990
営業外収益合計	20,956	27,265
営業外費用		
為替差損	92,713	46,973
過年度売上税等	22,925	-
その他	1,779	5,014
営業外費用合計	117,417	51,988
経常利益	1,098,580	1,009,996
特別利益		
固定資産売却益	0	-
特別利益合計	0	-
特別損失		
固定資産除却損	766	14,830
契約解約損	-	2,394
特別損失合計	766	17,225
税金等調整前四半期純利益	1,097,814	992,771
法人税、住民税及び事業税	111,038	427,189
法人税等調整額	374,388	42,453
法人税等合計	485,426	469,643
四半期純利益	612,387	523,127
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失( )	11,446	8,972
親会社株主に帰属する四半期純利益	600,941	532,100

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	612,387	523,127
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	398,095	239,514
その他の包括利益合計	398,095	239,514
四半期包括利益	1,010,482	762,642
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	985,207	759,821
非支配株主に係る四半期包括利益	25,275	2,821

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,097,814	992,771
減価償却費	186,700	240,790
受取利息及び受取配当金	12,435	19,455
為替差損益(は益)	37,460	15,274
固定資産売却損益(は益)	0	-
固定資産除却損	766	14,830
売上債権の増減額(は増加)	1,451,726	1,612,488
棚卸資産の増減額(は増加)	30,654	11,067
仕入債務の増減額(は減少)	405,844	1,238,349
未払費用の増減額(は減少)	240,157	18,436
未払消費税等の増減額(は減少)	168,914	29,604
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,498	29,725
賞与引当金の増減額(は減少)	446,221	156,697
役員賞与引当金の増減額(は減少)	10,923	13,000
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	39,239	31,082
その他	85,583	196,241
小計	1,429,242	1,723,389
利息及び配当金の受取額	11,452	14,138
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	941,524	13,313
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>499,170</b>	<b>1,750,841</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	97,730	406,560
定期預金の払戻による収入	97,730	101,640
有形固定資産の取得による支出	74,152	62,162
有形固定資産の売却による収入	0	111
無形固定資産の取得による支出	228,055	369,698
有価証券の取得による支出	500,000	7,500,000
有価証券の償還による収入	-	5,600,000
貸付金の回収による収入	3,579,656	-
その他	16,037	4,053
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,761,411</b>	<b>2,640,722</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	209,793	-
配当金の支払額	962,079	884,875
非支配株主への配当金の支払額	26,785	15,168
非支配株主への払戻による支出	121,799	-
その他	243	731
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,320,701</b>	<b>900,775</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	515,760	280,430
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,455,641	1,510,226
現金及び現金同等物の期首残高	12,339,377	12,750,101
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,795,018	11,239,875

## 【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
税金費用の計算	連結子会社は、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金	8,400,828千円	9,682,795千円
有価証券勘定	7,000,000千円	6,400,000千円
預入期間が3か月を超える定期預金	105,810千円	442,920千円
償還期間が3か月を超える債券等	500,000千円	4,400,000千円
現金及び現金同等物	14,795,018千円	11,239,875千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年2月9日 取締役会	普通株式	509,351	16.33	2021年12月31日	2022年2月28日	利益剰余金
2022年8月3日 取締役会	普通株式	457,157	14.80	2022年6月30日	2022年8月30日	利益剰余金

## 2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## 3. 株主資本の著しい変動

当社は、2022年2月14日開催の取締役会決議に基づき、自己株式320,000株の取得を行っております。また、2022年3月31日開催の取締役会決議に基づき、譲渡制限付株式報酬として自己株式17,840株の処分を行っております。この結果、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が198,625千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が755,057千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年2月9日 取締役会	普通株式	438,615	14.20	2022年12月31日	2023年2月24日	利益剰余金
2023年8月9日 取締役会	普通株式	448,070	14.50	2023年6月30日	2023年8月28日	利益剰余金

## 2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## 3. 株主資本の著しい変動

当社は、2023年3月31日開催の取締役会決議に基づき、譲渡制限付株式報酬として自己株式13,023株の処分を行っております。この結果、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が8,282千円減少し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が746,596千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	シミュレーション ソリューション サービス事業	IT ソリューション サービス事業			
売上高					
一時点で移転される財 またはサービス	5,436,368	519,027	5,955,395	-	5,955,395
一定の期間にわたり移転 される財またはサービス	5,900,960	2,549,666	8,450,626	-	8,450,626
顧客との契約から生じる 収益	11,337,328	3,068,693	14,406,021	-	14,406,021
外部顧客への売上高	11,337,328	3,068,693	14,406,021	-	14,406,021
セグメント間の内部売上高 または振替高	-	446	446	446	-
計	11,337,328	3,069,139	14,406,467	446	14,406,021
セグメント利益	1,847,125	405,535	2,252,661	1,057,619	1,195,042

(注)1. セグメント利益の調整額 1,057,619千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,057,619千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	シミュレーション ソリューション サービス事業	IT ソリューション サービス事業			
売上高					
一時点で移転される財 またはサービス	4,872,030	477,599	5,349,629	-	5,349,629
一定の期間にわたり移転 される財またはサービス	7,164,696	2,768,324	9,933,021	-	9,933,021
顧客との契約から生じる 収益	12,036,727	3,245,923	15,282,651	-	15,282,651
外部顧客への売上高	12,036,727	3,245,923	15,282,651	-	15,282,651
セグメント間の内部売上高 または振替高	-	415	415	415	-
計	12,036,727	3,246,339	15,283,067	415	15,282,651
セグメント利益	1,746,716	342,746	2,089,463	1,054,743	1,034,719

(注)1. セグメント利益の調整額 1,054,743千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,054,743千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額(円)	19.40	17.22
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	600,941	532,100
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	600,941	532,100
普通株式の期中平均株式数(株)	30,977,873	30,896,195

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

(支配株主である富士ソフト株式会社による当社株式に対する公開買付けについて)

当社は、2023年11月8日開催の取締役会において、当社の支配株主(親会社)である富士ソフト株式会社(以下「公開買付者」といいます。)による当社の普通株式(以下「当社株式」といいます。)に対する公開買付け(以下「本公開買付け」といいます。)に賛同の意見を表明するとともに、当社の株主の皆様に対して、本公開買付けに応募することを推奨することを決議いたしました。

なお、当社の上記取締役会決議は、公開買付者が本公開買付け及びその後の一連の手続により当社を公開買付者の完全子会社とすることを企図していること、並びに当社株式が上場廃止となる予定であることを前提として行われたものです。

1. 公開買付者の概要

(1) 名称	富士ソフト株式会社
(2) 所在地	神奈川県横浜市中区桜木町一丁目1番地
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役 社長執行役員 坂下智保
(4) 事業内容	S I (システムインテグレーション) 事業、ファシリティ事業、その他
(5) 資本金	26,200百万円(2022年12月31日現在)
(6) 設立年月日	1970年5月15日



大株主及び持株比率 (7) (2023年6月30日現在) (注1)	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	10.10%
	有限会社エヌエフシー	9.63%
	MLI FOR CLIENT GENERAL OMNI NON COLLATERAL NON TREATY-PB (常任代理人 BOFA証券株式会社)	7.12%
	株式会社日本カストディ銀行(信託口)	6.86%
	野澤 宏	5.62%
	MSIP CLIENT SECURITIES (常任代理人 モルガン・スタンレーMUF G証券株式会社)	4.49%
	Cabrillo Funding Ltd. (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	3.54%
	J.P. MORGAN SECURITIES PLC F OR AND ON BEHALF OF ITS CLIE NTS JPMSP RE CLIENT ASSETS - S EGR ACCT (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	2.48%
	J Pモルガン証券株式会社	2.14%
	3 D OPPORTUNITY MASTER FUND (香港上海銀行東京支店)	1.89%
(8) 上場会社と公開買付者の関係		
資本関係	公開買付者は、本日現在、当社株式を16,807,500株(所有割合(注2):54.39%)所有し、当社を連結子会社としております。	
人的関係	本日現在、当社取締役8名のうち、1名(白石善治氏)は公開買付者の出身者です。また、当社取締役のうち安江令子氏は2009年7月から2018年1月まで公開買付者に在籍していました。また、監査役のうち内藤達也氏は2006年9月から2020年2月まで公開買付者に在籍していました。	
取引関係	当社は、公開買付者から、本社オフィスを賃借しており、また、公開買付者が取り扱うソフトウェアを購入、利用しています。また、当社が取り扱うセキュリティ製品を公開買付者を通して顧客へ販売、当社が顧客に提供するサービスの一部業務を公開買付者へ委託するなど、事業面で連携しております。	
関連当事者への 該当状況	公開買付者は当社の親会社であり、公開買付者と当社は相互に関連当事者に該当します。	

(注1)「大株主及び持株比率」については、公開買付者が2023年8月14日に提出した第54期第2四半期報告書の「大株主の状況」より引用しております。

(注2)「所有割合」とは、当社が2023年11月8日に公表した「2023年12月期 第3四半期決算短信[日本基準](連結)」に記載された2023年9月30日現在の当社の発行済株式総数(32,076,000株)から、同日現在当社が所有する自己株式数(1,174,595株)を控除した株式数(30,901,405株)に対する割合(小数点以下第三位を四捨五入。)をいいます。

## 2. 本公開買付けの概要

### (1) 買付け等の期間

2023年11月9日(木曜日)から2023年12月21日(木曜日)まで(30営業日)

### (2) 買付け等の価格

普通株式1株につき、1,095円

### (3) 買付予定の株券等の数

買付予定数 14,093,905株(上限なし)

買付予定数の下限 3,793,500株

## 2 【その他】

第39期(2023年1月1日から2023年12月31日まで)中間配当について、2023年8月9日開催の取締役会において、2023年6月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	448,070千円
1株当たりの金額	14.50円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2023年8月28日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月9日

サイバネットシステム株式会社  
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石 井 雅 也 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 横 山 雄 一 印

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているサイバネットシステム株式会社の2023年1月1日から2023年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年1月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、サイバネットシステム株式会社及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 強調事項

注記事項（重要な後発事象）に記載されているとおり、会社は2023年11月8日開催の取締役会において、親会社である富士ソフト株式会社による会社の普通株式に対する公開買付けについて賛同の意見を表明するとともに、会社の株主に対し本公開買付けへの応募を推奨することを決議した。なお、上記取締役会決議は、公開買付者が本公開買付け及びその後の一連の手続により会社を公開買付者の完全子会社とすることを企図していること、並びに会社株式が上場廃止となる予定であることを前提として行われたものである。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。